

# 子どもの話を聴くときは

兵庫県教育委員会 防災マニュアルに基づいて

文 篠原久美子

- 1) 子どもの声を聴くときは、  
教えてもらう気持ちでね。  
一生懸命、耳傾けて、  
教えてもらおう、子どもの世界。  
子どもの世界の扉はね、  
内側からしか開かないの。  
信じるおとなに向かってね。
- 2) 子どもの話を聴くときは、  
じっくり、ゆっくり、ゆったりね。  
言おうと思うと時間切れ、  
中途半端は苦しいよ。  
子どものつらさと言葉はね、  
外に出るまで時間があるの。  
待ってる時間も、聴いてる時間。
- 3) 子どもの話を聴くときは、  
「聴いてるサイン」を伝えてね。  
あいづちうって、うなづいて、  
子どもの言葉を繰り返し。  
不安な気持ちの子どもはね、  
小さな合図で安心するの。  
「ぼくをわかってくれてるな」って。
- 4) 子どもの話を聴くときは、  
途中で止めたりしないでね。  
批判をしたりまとめたり、  
言い聞かせないで、ただ聴いて。  
おとなが口を開くとね、  
子どもの口が閉じてくよ。  
知りたいのなら、耳、開こう。
- 5) 子どもの話を聴くときは、  
瞳のサインをみていてね。  
子どもはたいていおとなのね、  
目なんか見ては話せない。  
それでも分かってほしいとき、  
瞳で合図を送ってる。  
見逃さないで、みていてね。
- 6) 子どもの話を聴くときは、  
顔の高さを合わせてね。  
上から見下ろされるとね、  
だれでもちょっと固くなる。  
視線の低い子どもにね、  
しゃがんで視点を合わせてね。  
子どもが話しやすいから。
- 7) 子どもの話に答えるときは、  
声の調子を同じにね。  
大きな声や高い声、  
おとなのイライラ伝わるよ。  
子どもは意味を知らなくてもね、  
声で気持ちがわかるんだ。  
言葉が出にくくなっちゃうよ。
- 8) 子どもの不安を聴くときは、  
子どもの気持ちを感じてね。  
「なぜ？」「どうして？」が、  
問いつめに感じてしまうとき、あるの。  
子どもの心配、不安はね、  
「不安なの？」って繰り返してね。  
答えは、一緒に考えて。
- 9) 子どもの不安を聴くときは、  
すぐに原因、決めないで。  
「地震のせいだ」「性格だ」  
決めてもそれは答えじゃないの。  
子どもを取り巻く世界もね、  
子どもの心も 単純じゃない。  
広く大きな視野で見て。
- 10) 子どもの悩みを聴くときは、  
子どもの力を信じてね。  
しっかり聴いて、じっくり支え、  
いろんな見かたのアドバイス。  
だけど最後は子どもがね、  
子ども自身で解決するの。  
おとなが信じた子どもはね、  
乗り越えられるよ、大丈夫。